

## 地域とつながり ふるさと愛を育む総合学習

三田市立ゆりのき台小学校  
主幹教諭 三輪 三四郎

### 1 取組の内容・方法

#### (1) 研究概要と単元計画

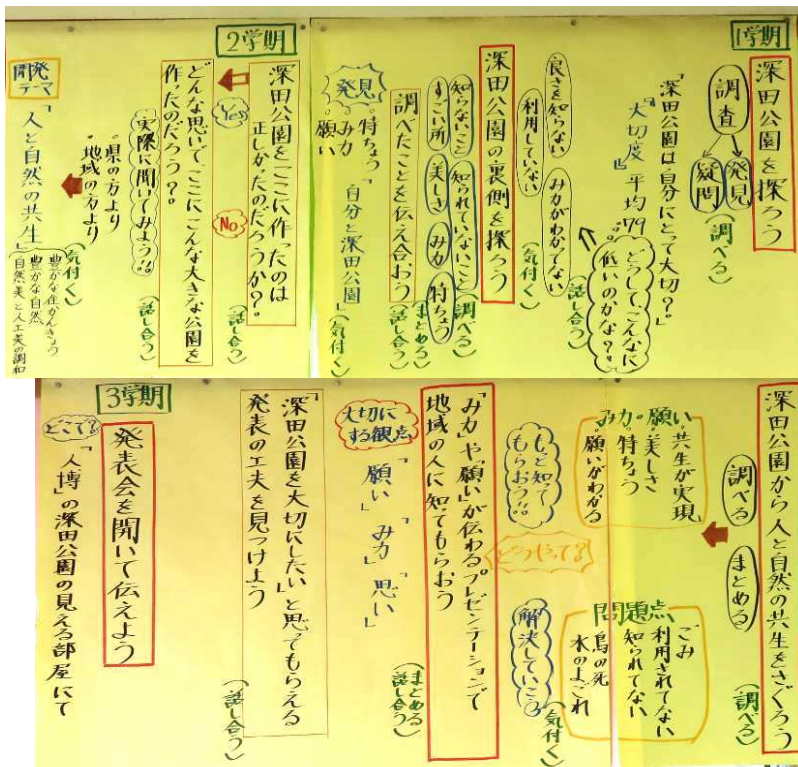
校区内（前任校：三田市立弥生小学校）にある「深田公園」は自然豊かな公園で、広大な面積を有するだけではなく、その中心に「人と自然の博物館」が立地する【写真1】。自然環境や都市開発を学ぶ上で、様々な探究価値を有している。植物・動物・池・川・モニュメント、『人と自然の共生』。子どもたちの、追究していきたい探究課題がいろいろと見つけやすい学習場所である。また、地域の中心にあるこの公園は、子どもと地域をつなぐかけはしにもなると考えた。そこで、総合的な学習の時間において、「自然や地域とつながりながらふるさと愛を育み身に付けたい資質・能力を高める学習」をめざして教材化をはかった。



【写真1】 深田公園と人と自然の博物館

『人と自然の共生』という視点で学びを深める際、「深田公園」は魅力や特徴、そこに「込められた願い」を多く発見しやすい。そこで1学期は、各自が課題を持ち現地調査を行った。様々な自然に触れ、豊かな体験をし、心地よく楽しい時間を過ごす中で、子どもたちは無意識のうちに様々な疑問を持った。「課題発見」⇒「情報収集」を行い、その内容を個々に新聞へとまとめた。2学期には「深田公園」も秋の様相へと変化し、新たな美しさをみせる。春の自然と対比させながら、もう一度「深田公園」を見つめさせると、さらにその魅力を実感した。そこで、「これほど大きな公園が弥生のまちに本当に必要だったのか」を全体で考え、「深田公園」の設計テーマや建設への願いを発見させる活動を行った。

そこで『人と自然の共生』について深く学んだ子どもたちは、その願いや良さが地域の人々に理解されていないことに気付く。そのような地域の人々が『深田公園を大切にしたい』と思ってもらえるためには、どのような取り組みが必要なのかを話し合った。そして、自分たちが調べてきたことを地域に発信するためのプレゼンテーションを作り、それを仲間と共に改良していくことを2学期の活動の柱とした。3学期は、その内容を地域で発表する活動を行った【写真2】。



【写真2】 年間の学習の流れをまとめた掲示物

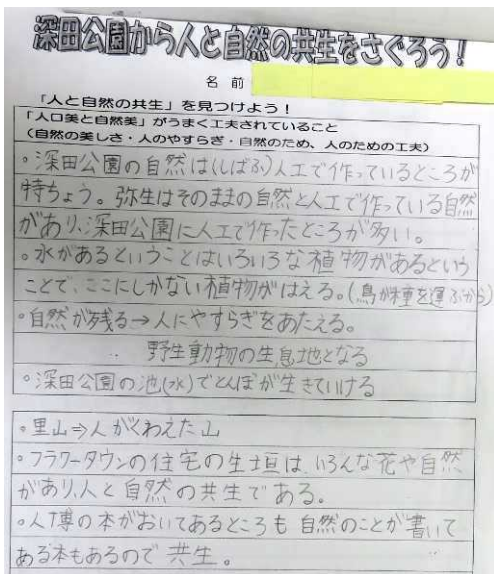
## 2 取組の成果

### (1) 「人と自然の博物館」と連携した学習の有効性

深田公園の中にある建物、モニュメント、植物、芝生広場、ビオトープなど、日ごろ何気なく素通りしているものでも、『人と自然の共生』という視点でそれらを見つめ直すと、新たに「なぜ」「どうして」「何のために」という疑問が次々と子どもの中からわいてくる。しかし、子どもたちが様々に課題を持って、調べ学習では解決できない課題も多く出てくる。インターネットでは深田公園に関するデータは少なく、関連する資料も少ない。そこで、「人と自然の博物館」の研究員に質問に行く活動を行った【写真3】。その後も、子どもたちはしばしば放課後に「人と自然



【写真3】「人と自然の博物館」  
研究員から話を聞く様子



【資料1】子どもの聞き取りメモ

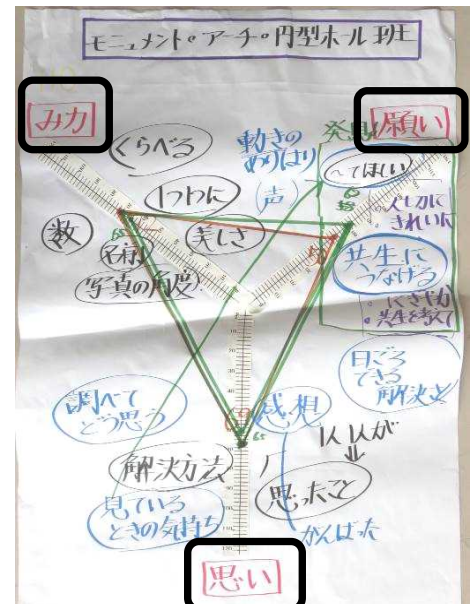
の博物館」へ赴き、調べ学習を行った。教師が子どものもった課題を把握し、「人と自然の博物館」の研究員と連携して授業をすることで、子どもたちの探究活動を効果的に進めていくことができた。専門的な視野で、写真や図を使って説明してもらえたことで、子どもたちは現地調査だけでは知ることのできない、詳しい内容まで新たに知ることができた【資料1】。



### (2) レーダーチャートを用いて観点ごとに分析

まず、「深田公園を大切にしたい」と思ってもらうためには、発表で何を伝えればよいかを話し合った。その結果、深田公園の『魅力』『願い』と自分たちの『思い』の3つが決まった。この3つの観点にそって、各グループが調べた内容をまとめプレゼンテーションを作成した。

次に、「地域の人々が『深田公園を大切にしたい』と思ってくれる発表の工夫を見つけよう」というめあてで、クラス内交流会を行った。各班が発表を行い、観点に沿って相互評価し合うことで、内容の検討をはかった。その結果、どの班も『思い』についての評価が低く、その内容も具体性に欠けていた。そこで、「地域の大人を動かすためには、何が必要なのか」に視点を当て、レーダーチャートの観点にそって、再度必要となる具体的な内容について話し合った。ここでは、「深田公園における具体的な問題点」「自分たちの考えるその解決方法」「これから自分たちはこうしていきたい」という決意、「自分の経験や感動」など、多くの具体的な発表内容の工夫を見つけ



【写真4】 第1回交流会で見つ  
出した発表内容の工夫

出すことができた【写真4】。観点を決め、その観点に沿って評価し合いながら内容を検討していく活動は、物事を多面的に捉えて考えることにつながった。

### (3) 「人と自然の博物館を活用した発表会」の意義

子どもたちは、調べた内容を「地域に住む人に伝える」事が大切であると考えた。「地域に住む人」にたくさん発表を聞いてもらうために、どこで発表会を開くことが有効であるかを話し合った。その結果、深田公園のある「人と自然の博物館」が1番よいという結果となった。その後、子どもたちは宣伝ポスターを作って様々な場所へ掲示依頼に出かけた。地域に出て、担当者に活動内容を説明したり掲示のお願いをしたりする活動は、子どもたちにとって初めてのことだったので、地域とつながる良いきっかけとなった。「貼ってもらえた!」「拡大印刷して店の掲示板上に貼ってもらえた!」【写真5】など、喜びの声が多く聞かれた。ポスター作戦がうまくいったため、次はチラシを作って人の集まる所に配りに行く活動を自主的に始めた。放課後、参加可能な仲間を集め、ショッピングセンターで多くの方々に自分達から声をかけチラシ配り始めた【写真6】。子どもの活動に、多くの方が足を止めて話を聞いてくれたことや、チラシをもらった方が多く発表会にも参加してくれたことが、子どもたちの自信と達成感につながった。また、対象を「大人」、場所を「地域」としたことで、発表内容も深まりを見せた。「だれでも知っているような内容は伝える必要がないこと。」「自分たちが深田公園をどう思っているのかを伝えることで、大人の意識を変えられること。」などに気付き、「自分たちはこれから～したい。」という決意などが、発表に盛り込まれるようになった。そのため、発表内容が子どもたちの視点で深田公園を捉えた、説得力のあるものに近づいていった。

そして、発表会当日は保護者以外にも、情報を知った地域の方々が多く参加してくれた【写真7】。60人を超える参加者が来てくれたことで、子どもたちは自分たちの活動にやりがいと達成感を持つことができた。発表会後のアンケートには、発表内容のすばらしさと発表態度、提案性のよさについて多く感想をもらうことができた。「地域に住んでいながら、深田公園について知らないことが多くあった」「『願い』を初めて知った」「多くの問題点があることを知らなかった」など、この発表会のおかげで、深田公園に対する意識が変わったという感想を見た子どもたちは、自分



【写真5】地域のショッピングセンターに掲示されたポスター



【写真6】ショッピングセンターでチラシを配る様子



【写真7】発表会の様子  
「人と自然の博物館」にて

たちの学習と取り組みが地域の大人たちに大きく影響を与えたことを知った。そして、自分たちの行った活動に誇りをもち、自分たちの地域「深田公園」を愛する気持ちをさらに強くしたようであった。また、学校だけではなく、地域と共に「深田公園」を考え、知り、見つめ直すことができた点において、その意義は大きかった。

### 3 課題及び今後の取組の方向

「人とつながる力」「新たな知を創造し表現する力」「情報を整理・分析し活用する力」これらの資質・能力はこれからの時代にたいへん重要な力である。地域との連携を生かした総合学習は、これらの力の育成にたいへん効果的であると学んだ。本年度、転勤により新たな学校での勤務となった。ニュータウンの大規模校であるが、地域は学校にたいへん協力的で温かい。

また、「子どもと共に」という思いも大きい。そこで、地域の方が来場する図工展の案内及び作品紹介を、5年生の子どもが行う総合学習を計画した【写真8】。様々な情報を整理してまとめ、相手意識をもって生き生きと表現する子どもの姿は、教室とは少し違って見えた。秋に行われる地域のお祭り「ユリッキー祭り」では、準備と当日の運営ボランティアを、子どもたちが行った【写真9】。企画・運営者としてお祭りに参加したことで、今まで見えなかったことが、たくさん見えるようになっていた。見え方が変わると考え方も変わる。その後、子どもたちの行動に少し変化が見られた。

子どもたちは、自分たちがこの活動を創り上げていると実感したとき、自然と主体的になり活動に没頭する。そこに問題が発生したとき、仲間と頭を寄せ合って意見を交わし合い、問題解決を図ろうとする。新たにみんなで創り上げていく活動には、「主体的・対話的で深い学び」が、自然と生まれる。この学びの姿こそが、これからの教育がめざそうとしているものではないだろうか。では、教師の役割は何なのか？その1つはファシリテータ役だと考えている。子どもたちの知を整理したり、つなぎ合わせたりしながら、新たな知に導いていく。決して教え込むのではなく、対話を通して共に考えながら、知を創り上げていくイメージである。子どもたちのエネルギーや発想力は、計り知れないものである。それを、どのように引き出していくのかが教師の力量であると考えている。もう1つの役割は、子どもたちが考えたいような「しかけ」をいかに作るのかである。何を見せるのか、どの順番で見せるのか、何でゆさぶるのか。本気で考えたい問題に出合わせる役割、これも大切な教師の役割ではないだろうか。どの教科においても、教師の役割は変わらない。「主体的・対話的で深い学び」が実現できる学習を、今後も模索したい。



【写真8】図工展の案内



【写真9】ユリッキー祭り